



かせかけ

編集 沖縄県立看護大学
広報専門部会
発行 平成20年9月30日



目次

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ●開学10周年を迎えて……………2 | ●サークル紹介……………7 |
| ●公立大学法人化に向けて……………3 | ●図書館だより……………7 |
| ●「別科助産専攻」のスタート……………3 | ●第10回看大祭……………8 |
| ●「開学10周年記念」シリーズ(1)……………4 | ●委員会・専門部会活動……………10 |
| ●新入生の声……………6 | ●教職員の動き……………11 |
| ●学生会長挨拶……………7 | ●沖縄県立看護大学開学10周年記念講演 ……12 |

「開学10周年を迎えて」

沖縄県立看護大学
学長 野口 美和子



「看護の基礎教育を大学で」の熱い思いと長い努力が実を結んで開学した本学も、もう10年を迎えました。その間学士課程を完成した上に、さらに大学院の修士課程(博士前期課程)と博士課程(博士後期課程)も開設され、これも完成いたしました。

大学・大学院での教育は、単に専門的知識、技術を持つ職業人を育成することのみにあるのではなく、これに高い倫理観と広い視野に加えて、生涯学習のための基礎的能力と意欲を兼ね備え、将来その領域の実践と学問の発展を支える人材を輩出することにあります。ですから、その成果は、すぐに出るものではありません。本学においても開設10年を迎えてようやく少しずつ教育の成果がみえてきたところです。それぞれの現場に慣れ中堅としての役割を果たそうとしている者、本土で研鑽を積んで帰沖する者、そして母校である本学の教員として採用される者も出始めております。嬉しい限りです。

本年4月に別科助産専攻を開設しました。産科領域の医療職不足への緊急対応として、看護師資格を有する者に1年の教育を行い、助産師国家試験受験資格を与えるコースです。

本学の10年の看護教育の実績と教育環境のもとで、立派なカリキュラムと教員を準備できました。その上、助産師会、産科医会のチャレンジフルな御協力を得ることができ、堂々の開設にいたりました。このことは沖縄県では、大学と保健医療現場とが協力すれば県民の看護の問題を解決できるという大きな自信を与えてくれる経験となりました。

これからの10年も沖縄の保健医療問題をしっかりと見据えて実践の場の関係者の方々を心を一つにして看護人材育成の中核として沖縄県民

の健康生活を支えると共に、看護体制のより一層の発展を目指したいと思います。

離島僻地では、島の結びつきの強さを生かして、人々が助け合っています。又数少ない保健医療福祉の関係者が連携することを通して、きめ細かく、かつ先進的で創造的に工夫していける条件を秘めています。そして、長寿先進地域でもあります。離島における地域文化に根ざした看護学の実践的教育研究の取り組みをGood Practiceとして文部科学省の支援事業として申請しました。採択されるかどうかは分かりませんが、採否にかかわらず、これに取り組み成果を挙げて、沖縄でこそできる取り組みを通して世界の看護の発展に貢献していきたいと考えています。

最後に卒業生の皆様には、自分の伸びようとする力を信じて、周りの方々を手をたずさえて、本大学で学ばれたところを少しずつでも実践して、人々の幸せに連なっていくかを確かめてくださるようお願いいたします。先輩の看護職はじめ保健医療福祉関係の方々、そして県民の方には、本学ならびに卒業生に対して皆様の希望とご批判をぶつけてくださるようお願いいたします。皆様の御協力があつてはじめて沖縄県立看護大学は沖縄県の看護大学として成長できると思います。

「公立大学法人化に向けて」

法人化調整総括
新里 榮



地方独立行政法人制度がスタートして4年が過ぎ、今年4月段階で全国75の公立大学のうち半数以上が法人へ移行しました。沖縄県の本学を含めた二つの県立大学においても、行政組織部門から独立した法人格を有する公立大学法人への移行を目指した準備を進めております。実際に、制度導入が大学に現在よりも自主、自立性を与え活性化をもたらすという本来の目的どおりに働くかは、大学が自らの存在意義を明らかにし、十分な成果を挙げていくため今以上の一層の努力が必要なことは申すまでもありません。法人化に伴うメリットを真に引き出

すため、大学のあり方について、教職員一人ひとりが主体的に考えるという意識の向上を図りながら法人化へ向けた作業を進めていきたいと思っています。

沖縄県立看護大学は単一学部のこじんまりした大学ですが、小規模ゆえにその目的を明確化させ、小回りをきかせて社会の変化にすばやく対応し、特色ある大学運営を行ってきました。法人化論議を契機に今後も本学の設置目的や経緯を踏まえ、これまで以上に県民、地域社会の期待に応える魅力ある大学にしていきたいと教職員一同決意を新たにしているところです。

「別科助産専攻」のスタート

別科助産専攻教授
知念 榮子



平成20年4月3日、私にとって記念すべき日となりました。

大学学部での助産師教育と併せ、新たな助産師教育が本学において「別科助産専攻」としてスタートしたのです。日本助産師会沖縄県支部、沖縄県看護協会、日本産婦人科医会沖縄県支部、県医師会等、保健医療に関わる関係団体の根気強い要請・陳情活動が結実した結果です。

去った、4月に入学してきた学生たちは、年齢層も幅広く、又、看護師としてあるいは保健師として、その経験はさまざまです。しかし、共通していることは、全員が「助産師に絶対なるんだ！」という強い決意で学んでいるというこ

とです。一人ひとりがすでに母子保健医療に関する課題を持ち、それに向かう自己イメージができるからだと思います。こころ強いかぎりです。私自身、助産師職能の一人として、又、看護行政に関わる助産師として、新たな形での助産師教育が始められたことを、職業人としてのゴールだと思っていました。しかし、思いがけないことで、別科助産専攻での助産師教育に関わることになりました。志高い彼らの熱い思いを直に感じながら、1年で完結する待たなしの教育に、緊張の連続ですが、新たな歴史の1ページを刻んでいくということを喜びとしながら、日々努力しているところです。

開学10周年記念シリーズ(1)



沖縄県立看護大学後援会
会長 新垣 榮幸

沖縄県立看護大学開学10周年おめでとうございます。

ハイサイ! 初めまして、今年度、後援会長となりました新垣榮幸と申します。どうか、宜しくお願い申し上げます。

さて、本学は、開学10周年という記念の年になりました。既に第6期生まで卒業生を送り出し、看護師、保健師、助産師として、県内外での医療従事者、またはリーダーとして活躍されていることは、私達の大きな誇りであります。本学の設立準備、そして今日まで大学運営、教育環境整備等

に関わった多くの先生方、その他多大なるご支援を賜りました関係機関に対し、心から敬意と感謝を申し上げます。

「女性は看護師、男性は医者になりたい」、これは最近の新聞記事ですが、「もし、別の人生を歩めるとしたら、あなたは何になりたいですか」、ある企業が「大人の夢」をテーマにしたアンケート調査結果のようです。

「苦しい病魔と闘っている方々を救いたい」という子供の頃からの夢を私たちの子弟は、「やさしさ、思いやりをもって、専門的な知識、技術の修得」を、今、正に追い求めている最中でありませう。少子高齢化という我が国の現状において、本学の担う役割は、これから益々増大していくものと思われませう。

沖縄県立看護大学同窓会
会長 高良 明友美



思えば、私が入学した頃は、大学もスタートを切ったばかりという感じで、何もかもがまだ新しく、手探りといった印象を受けた。

学生である私達の心境としては「新しい大学の歴史の一步を踏み出すんだ」という喜びがある半面、大学教育を受ける看護学生としてプレッシャーのようなものも抱いていたと思う。3期生の私でもそう思ったのだから、先頭を切った1期生の心境は言うまでもない。

「歴史の一步を踏み出す」というのは、大きな言い方かもしれないが、これまで学生の声大学の細かな部分を変えてきたことで、今日の形があるというのは事実である。図書館の開館時間についても、1期生が卒業時に声をあげたことで、延長の実現につながったの

である。

小さなことではあっても、一つ一つ積み上げられてきた形があり、それらが歴史となっていくのだと感じる。

開学から10年、卒業生約480名、それぞれが様々な場で着実に看護の道に励んでいる。これからは卒業生が大学の発展に貢献できる場づくりを同窓会が担い、また新たな一步とともに踏み出して行きたいと思う。

「沖縄県立看護大学の歌」の歌詞決定

校歌制定WG委員長 渡久山 朝裕

開学10周年を記念し、本大学の使命や目的、学風を表現できる沖縄県立看護大学の歌を制定するため、歌詞を公募いたしました。本学ホームページ、県内の新聞、ラジオによる広報、また沖縄県庁の広報課および関係部署の協力を得て応募を呼びかけましたところ、全国から31点の作品が寄せられました。作者名等の個人情報を秘匿し、歌詞のみの資料に整えたうえで、まず選考委員会による1次選考により3点の候補作品を選出し、そして全学生・院生・教職員の投票による2次選考の結果、本学教授新城正紀氏の作品が採用されました。結果的に本学関係者の作品が選ばれたわけですが、開学以来、本学で勤務されている新城氏の想いが歌詞

沖縄県立看護大学の歌
作詞 新城正紀

人々の 生命の尊さ 大切に
人のやさしさに ふれあえば
看護の知識 学びは深く
友と語りて 師に励まされ
豊かな心で 看護を学ぶ
我らが 沖縄県立看護大学

地球に 生きる生命を 大切に
病める人々の 声を聴く
珊瑚の海越え 愛しみ広げ
世界に飛び立つ 大志を抱け
広き視野もて 看護を学ぶ
我らが 沖縄県立看護大学

おだやかな 陽さしあふれる 校舎は
そよ風吹きて 木々ゆらす
色とりどりの 花の癒し
小鳥のさえずりに 日々励まされ
希望を胸に 看護を学ぶ
我らが 沖縄県立看護大学

に表れ、多くの学生・教職員らの支持を得たのだと推察いたします。さて、次の作業はこの歌詞にふさわしい曲を選ぶことです。歌詞と同様、県内県外に作曲の応募を呼びかけています。10月には曲も決定し、10周年記念式典でご披露する計画です。

「開学10周年プレ記念講演会および学生・卒業生フォーラムの開催」

記念講演会WG委員長 神里 みどり

開学記念日である5月15日に開学10周年を記念して、学長によるプレ記念講演会と学生・卒業生によるフォーラムを開催致しました。プレ記念講演会では、「文化に根ざした看護の実践教育研究について」、学生フォーラムでは、「未来につなげよう！看護大学の和」と題して卒業生による過去・現在・未来について熱く語って頂きました。本大学の特徴である遠隔教育システム(FCS)を使用して、各卒業生の職場である広範囲な地域、本島、宮古島、久米島、北部地域、さらに東京などから6名の卒業生がウェブカメラを通して参加をして頂きました。卒業生のこれまでのご自身の歩みと成長、抱負についてさまざま



まな職種(看護師、保健師、養護教諭、大学院生など)の立場で語り合うことができ、在学生のみなならず、教職員一同、頼もしく成長した卒業生の姿に感無量の念を抱いたと思います。同窓生名簿がない中で、このような卒業生による小さな和が少しずつ広がって、大きなネットワークへとつながり、在学生・教職員との交流を今後ともぜひ深めていってほしいと願っております。卒業生の活躍こそが本大学の教育の賜物なのです！

「10周年記念ロゴマークの決定」

大学グッズ作成WG 仲宗根 洋子

当WGは、教職員6人と学生3人のメンバーです。第1回の会議では大学グッズを作成するというところでいろいろなアイデアを出し合い夢が大きく膨らみました。しかし、企画が進むうちに予算的制約の中、「ロゴ」・グッズ作成が現実的となりました。「ロゴ」の募集は、3人の担当者が中心となり募集のポスター作成と掲示、応募箱の設置、応募用紙を作成。作品の募集は、全学部学生・院生・助産別科専攻生、教職員その他大学関係者に呼びかけました。その結果、大学の内外から36の作品応募がありま



した。その中から応募基準を満たさない2作品を除き、WGメンバーによる予備審査で11作品を選出、次に全学生・教職員の投票により写真の2作品(左:職員・与那嶺あさ子作、右:4年次・當真愛弓作)が選ばれました。当ロゴは、開学10周年を記念するグッズとしてお出ましの予定です。

新入生の声



私は八重山諸島のひとつである石垣島で生まれ育ちました。八重山諸島の医療施設には、十分な人材と医療設備が不足している状況があります。何かあれば、沖縄本島まで治療を受けに渡らねばならず、島で暮らす人たちの不安や経済的負担の大きさを、これまでの生活を通して私は感じてきました。そのため、島のひとたちの医療・看護・福祉に少しでも貢献することができたらと思い沖縄県立看護大学を志望しました。

学部1年生 上地 雄己

入学してみて、看護大学は落ち着いた雰囲気のある大学だと感じています。予想通り、男子学生が少なく、女子学生のパワーに圧倒されることも多いのですが、学生は皆、仲がよく、まとまりがあります。今は看護に関する専門的な授業が少ないので、看護大学で学んでいるという実感がわからないというのが正直な気持ちです。しかし、学年があがるにつれ、専門的な授業や実習が増え、忙しさも倍増すると聞いていますので、身を引き締めて頑張っていきたいと思っています。

大学院博士前期課程 比嘉 恵

私は、本学の3期生として平成17年3月に卒業し、離島の保健師として働いています。日々の業務に追われる毎日で平成20年の医療制度改革の大きな波にのまれそうになりましたが、私が目指していた「住民の心に寄り添う看護とは？」という原点になんとか戻ることになりました。また、離島の保健師は近くに先輩がほとんどいないため、若い私も即戦力かつ住民の立場で主張しなければならぬリーダーとして現場では求められることが多いです。そのプレッシャーや悶々とした思い、日頃の業務の課題の解消・実践的で現場で役立つ看護職者として、住民・地

域に貢献したいという気持ちで母校である本学大学院に進学しました。

大学院は、離島で働く私にも配慮され、夕方や土日、遠隔での講義が充実し、仕事との両立が可能です。院生仲間には様々な背景があり、一緒に討議をするだけでも刺激になり、楽しく多くのことを吸収できています。本学で学ぶのは2年という短い期間ではありますが、地域の保健師として責任ある看護を目指し、日々笑顔で奮闘中です。



沖縄県立看護大学開学10周年の今年、多くの沖縄県民が待ち望んでいた別科助産専攻が誕生しました。私も別科が開設されることをずっと心待ちにしていた一人でしたので1期生として入学できたことを本当に嬉しく思います。私達1期生は20名の仲間と3名の専任講師でスタートしました。今年看護師免許を取得したばかりの人から看護師の臨床経験が20年以上という大ベテランまでとク

別科助産専攻 赤嶺 さつき

ラスの年齢層も幅広く、お互いに多くの刺激を受けあいながら楽しく充実した毎日を過ごしています。入学して3ヶ月が経ちましたが、講義の中で産科の実情を学び専門的な学習を深めていくうちに助産師という職業の重みを改めて感じ、入学時よりもさらに身の引き締まる思いがします。1年という短い期間で助産師としての専門性を深め確かな技術を身につけることはとても大変ですが20名全員で心をついにし、沖縄の助産師不足に貢献できる人となることを目標に頑張っていきたいと思っています。

「学生会長挨拶」



有銘 寛信

今年度の沖縄県立看護大学、学生会会長に就任いたしました有銘寛信です。学生会では、主に大学のイベントの企画・運営、サークル活動の推進、学生会の予算案編成などを行っています。今年度の学生会の目標として『やる時はやる！遊ぶ時は遊ぶ！めりはりを持って学校生活を有意義なものに発展させていく』を掲げ大学の活性化に励んでいます。また、球技大会やサークル活動を通し学年を超えた生徒間や教職員、地域の人々との交流をより一層深め、楽しく快適な大学の雰囲気づくりを図っていくこと、そして、学生一人ひとりが自ら積極的に個性を活かすことで人と人との関わり合いが広がっていくことを目指しています。今年は、創立10周年を迎える節目の年でもあり、先輩方が積み上げてきた功績を大切に、これからの看護大学に必要なことを創造していきたいと思っています。学生会一同、日々活動に励み、より良い大学づくりを目指し頑張りたいと思います。

「サークル紹介」



三線サークル
屋我 友香

三線サークルは先輩方が同好会として立ち上げたのがきっかけで、2003年4月からサークルとして活動を始めました。サークルに参加する学生のきっかけは様々ですが、初めて触る、弾いてみたいという学生も多くいます。後援会より頂いたサークル費により、練習用の三線を購入したことで、三線を持っていない学生もその場で三線に触れ、体験することができるようになりました。実際に弾いてみることで、三線の味を覚え、「マイ三線」を購入する人、また、お家に眠っていた三線を復活させる人もいます。現在は約13名の学生と教職員で週1回、放課後に1～2時間の活動を行っています。内容は「ていんさぐぬ花」など、ポップスを中心に様々な曲に挑戦しています。始めは何となく聞き覚えがあるという曲もありましたが、実際、自分で弾き、歌うと曲に愛着が湧き、三線を通して沖縄を感じるができます。練習の成果は、看護祭で発表しています。また、臨地実習で三線を弾いたという学生もおり、今後は、大学外へも活動の場を広げていきたいと考えています。興味のある方、ぜひ一度遊びに来てください。



附属図書館長 金城 芳秀

本学の学生は嬉しくなるほど図書館を利用している。図書館を住処にしている学生も少なくない。図書館に入り浸るにはその人なりのお気に入りがあるのだろう。私にとっては、学生や図書司書の笑顔に会える場、取り寄せてもらった文献を受け取る場である。館内は広々として癒しの空間であるが、いくつか課題も抱えている。蔵書充実に向けて配架スペースの工夫と、夏暑く冬寒い空調設備も改善が必要である。これまで以上の創意工夫で、環境を整えな

がら利用者の声を大事にしたいと、スタッフ全員で取り組んでいるところである。

本学は今年10年目の節目を迎えている。そして開学10周年記念事業の一つとして、蔵書充実のための寄附をお願いしている。さっそく沖縄県看護学術振興財団理事長・比嘉良充博士（専門領域は哲学）から個人寄附100万円をいただいた。今後の多くの心遣いも、本学の教育目標の達成に向けて、洋書を含む学術図書の充実を生かしていきたい。そして、学生のみならず教職員においても、学問（博学の学と審問の間）の糧となる物的資源と人的資源を最大限に活用する義務が生じていることを、ここに確認しておきたい。

第10回 看護大祭



「学び深まる 看護大学祭」

第10回看大祭実行委員長
野崎 綾子

2008年2月末に役員の募集から始まり、約3ヶ月かけて看護大学祭は準備されてきました。看護系出展部は出展内容の企画立てや人員集めと勉強会、出店部は保健所と販売物の相談・交渉や衛生管理や構内配置をしたり、物品部は消耗品の補充や貸し出しの手続き、広告部はパンフレット・ポスター作成のための助成金集めや原本作成、駐車場部は駐車場確保、と忙しい日々が続き、つまづく事も多々ありました。ほとんどが外部との公文書のやり取りという初めての経験だったので、文書の作成にはとても時間がかかり、何度も役員と先生方と校正をくり返しました。大きな金額のお金のやり取りもあったので、緊張の続く毎日でした。

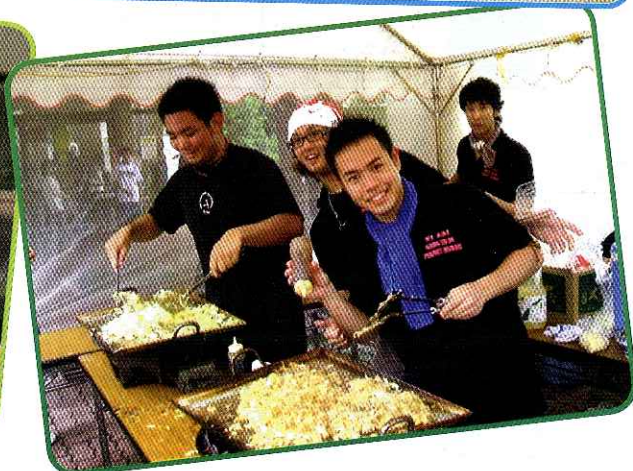
新学期、2年生になって専門科目が増えて課題も増える中、メンバー全員はハードな2ヶ月を過ごしてきました。1年生は入学して間もない中、たくさん手伝ってくれました。ハードな中で一生懸命頑張ってきたからこそ、看



看護大学祭が無事に終了したときの達成感は大きなものになりました。終了後、放課後が一気に自由になったことに対して、嬉しくもあり悲しくもあり、何かしていないと落ち着かないといった複雑な気持ちにもなりました。

今回、実行委員長になって、私は人をまとめることの難しさを知りました。自分の意見を言葉にすることが苦手だった私には、正直きついことだらけでした。しかし、これを通して、企画の立て方や文書の作成の仕方、普段の学校生活ではなかなか得がたいものを体験できて、様々なことをたくさんの仲間と協力しながら進めていくことが出来たので、この仕事をやって良かったと思っています。看護大学祭についてのアンケートに学校関係者と来場者にご協力いただき、嬉しい感想がたくさん届きました。これを読んだだけでも、やって良かった、と苦しいことが吹き飛びます。

今回は2日間で1,300人以上の来場者にお越しいただきました。たくさんの方に、実行委員会の目標の一つである看護大学の雰囲気・学生の心が伝わったと思います。看護大学祭を開催するに当たって、たくさんのご協力をいただきました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。



委員会・専門部会の活動

「海外研修生の受け入れ」



国際交流室運営委員会
委員長 神里みどり

6月2日・3日の2日間、本大学において南米6カ国(ボリビア、パラグアイ、ペルー、ブラジル、コロンビア、エクアドル)からの研修生12名が「南米地域母子保健強化コース」の一環として研修を行いました。主たる研修内容は、川崎道子講師による「健康教育および指導案作成」、玉城清子講師による「助産師教育の実際(OSCE見学)」でした。健康指導案の作成では各自が3つのグループに分かれて指導案を作成し、プレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションの主たるテーマは思春期による性教育や妊娠で、低年齢化する妊娠の問題は南米でも深刻のようで、ロールプレイなどを取り入れた健康指導に熱が入っていました。本学の助産師教育としてのOSCE見学後に、学生・教員を含めた活発な意見交換がなされました。南米では乳幼児・妊産婦死亡率などが非常に高く、さらに都市部における帝王切開の頻度がかなり高率であることから、その国独自の文化に根ざした健康教育の指導体制の構築が必要不可欠な課題であることを再認識した貴重な交流の場でした。

「地域貢献を意識した地域交流」

地域交流室運営委員会
委員長 大湾 明美

平成18年5月に誕生した地域交流室運営委員会は、地域貢献を意識した地域交流を始めました。

開学以来進めてきました公開講座は、地域からのニーズに基づいてテーマを選定し、大学で実施する「待ち」の学内講座に、要望に応じて「出向く」出張講座を加えました。現在、「新人保健師の事例検討」、「処遇困難事例のケアマネジメント」、「看護研究」等をテーマに、学内や出張で講座を開講しています。県民として、あるいは看護職者の生涯学習として、看護大学に開講してほしい講座がございましたらお声かけをお待ちしています。

また、これまで国内外から著名人を招き講演中心で実施されてきたナースングリーダーシップ会議は、沖縄県の看護のリーダー達が抱えている課題を共有しその解決を支援する会議にリメイクしました。保健看護実践現場の抱えている課題は山積していますが、看護の質を向上させるために専門看護師や認定看護師の養成や役割発揮のしくみ等について検討が進められています。会議の成果があがるよう看護のリーダー達のご協力をお願いします。

今後、県立大学として、公開講座やナースングリーダーシップ会議の充実を図りつつ、実践現場との共同研究や実践の改善の具体的支援等、新たな地域貢献の活性化にも力を注ぎます。

「進路対策専門部会」

部会長 富山富士子

1. 平成19年度卒業生(6期生)の就職・進学状況
(平成20年4月上旬現在)

		県内 (%)	県外 (%)	合計 (%)	
●就職	就職	49 (69.0)	22 (31.0)	71 (100)	
	看護師	国公立	32	4	36
		その他	8	15	23
	合計	40	19	59	
	保健師	公立	2	0	2
		合計	2	0	2
	助産師	国公立	2	1	3
		その他	4	2	6
	合計	6	3	9	
	養護教諭	国公立	0	1	1
合計		0	1	1	
●進学	国公立	2	1	3	
	その他	0	4	4	
合計	2	5	7		
●未定				3	
合計(人)				81	

- 就職セミナー：①小論文の書き方：5回コース(講師：波平八郎 県立芸大准教授)、②就職先の選び方(講師：本学学生部長)、③面接の受け方(講師：奥平登美子 県看護協会副会長)を4月～6月上旬に開催。
- 県内医療機関等の看護職員採用説明会：5月に開催(県内保健医療機関等26機関参加)。
- 学生間の情報交換会：「3年次と4年次」、「4年次同士」の情報交換会を卒業前に予定。
- その他：「進路決定への手引き」の作成、就職・進学の相談や内定調査を実施している。

「学習支援専門部会」

部会長 新城 正紀

1. 国家試験合格率の推移(1期生～6期生)

実施年度	期	看護師				保健師				助産師			
		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	合格率(全国)(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	合格率(全国)(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	合格率(全国)(%)
H14	1	71	70	98.6	92.6	71	66	93.0	91.5	9	9	100	89.2
H15	2	80	75	93.8	91.2	80	69	86.3	92.8	4	4	100	92.6
H16	3	79	77	97.5	91.4	79	71	89.9	81.5	7	7	100	99.7
H17	4	78	76	97.4	88.3	79	65	82.3	78.7	5	5	100	98.1
H18	5	79	77	97.5	90.6	78	78	100	99.0	10	10	100	94.3
H19	6	81	79	97.5	90.3	81	76	93.8	91.1	10	9	90.0	98.1

2. 国家試験対策

国家試験対策特別講義を2回実施する。

第1回目は、平成20年8月4日(月)～8月8日(金)の期間に開講します。

第2回目は、平成21年1月に予定しています。

開講予定の領域・科目は、①人体構造と機能、②疫学・公衆衛生学・保健統計、③学校保健、④基礎看護、⑤成人保健看護、⑥老年保健看護、⑦地域保健看護、⑧精神保健看護、⑨小児保健看護、⑩母性保健看護です。

■ ■ ■ ■ ■ 教職員の動き (1) ■ ■ ■ ■ ■

就 任



教授
知念 榮子

別科助産専攻において、助産師教育を担当しています。これまで、左うちわでやってきましたが、今年は、コマネズミのように動き回っています。メタボ解消になるのかも？と密かな期待を抱きつつ、がんばっています。今後ともよろしくお願ひします。



講師
上原 和代

はじめまして、4月から新設の別科助産専攻に参りました。大学までを大阪で過ごし、東京で助産師、栃木で教職を勤め、今年でちょうど臨床と教育が同年のキャリアとなりました。沖縄の地で多くの看護職が生まれ育っていかれますよう、力添えできればと思います。



講師
知念 正江

2008年4月1日付けで、別科助産専攻の講師に着任いたしました。教育に携るのは初めてであり、その責任の重さをひしひしと感じていますが、同時に仲間である助産師を育てていくことに関われることにワクワクもしています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。



助教
宇良 俊二

平成20年5月1日に辞令を頂きました精神保健看護の宇良俊二です。私は、県内の大学・大学院を卒業後、県内僻地で保健師、東京の私立大学で助手、県内の精神科病院で看護師を経験しました。これから本学で教育や研究等に努力します。宜しくお願ひします。



助手
久貝 千秋

私は本学の2期生です。卒後5年目で改めて私自身の看護観とは何かという自問の壁にぶち当たり、自分の出発地点に戻って来ました。学生さんとは教育者というよりも一人の看護職の先輩、大学の先輩として共に学んでいけたらと思っています。よろしくお願ひします。



助手
松田 梨奈

5月から看護大学の成人助手として、働くことになりました松田梨奈です。看護大学の二期生で、去年まで県立病院で勤務してました。現場で学んだことや感じたことを少しでも学生さんに伝えていけたらなと思っています。わからないこともたくさんありますが、どうぞ宜しくお願ひします。



助手
高原 美鈴

私は本学の2期生で、今年の6月から精神保健看護助手に着任いたしました。卒業後は大学病院で、精神科看護における人との関わりの難しさや面白さを学びました。その精神科看護を学生に伝えていくと共に私自身も、教育の現場でさらに学んでいきたいと考えています。



助手
上原いずみ

2008年7月2日付けで母性保健看護の助手に着任いたしました。5年前一期生として本学を卒業後は、県立病院で臨床勤務をしてきました。今回母校に戻ってきて、また勉強ができることを心より嬉しく感じています。教育者・研究者としては今年が一年生です。どうぞよろしくお願ひします。

転 入



学務課長
山城 正和

本学がめざす質の高い看護職者の育成が実を結ぶためには知識・技能の修得はもちろん、どんなに忙しくても患者さんを思い遣ることができる態度を身に着けることが必要です。私も学生の皆さんの身になって考える仕事を心掛けたいと思っています。



法人化調整総括
新里 榮

先日早速、法人化を先行した他県の大学を視察する機会がありました。先方へ尋ねたところ、教職員が自らの大学として帰属意識が高まり、より良い大学改革を目指す気持ちや経費の節減、有効活用の意識も自然に増してきたことが大きいと話していました。一担当として意を強くしました。

転入



主査
上地久美子

初めまして。公務員歴は、はっと振り返れば35年になりつつあります。必死に勤めた県立芸大の日々を思いながらの看護大学着任となりました。"若い皆さんの学びの環境を整えることができれば.."と、思う今日この頃です。



主任
當眞 嗣朗

4月から学務課に配属しています。4月から学務課に配属しています。当眞です。昨年11月から5ヶ月間、総務課に研修生としていたのですが、学務課に配属して、総務課と違った業務に奮闘中の毎日です。不慣れな点も多いと思いますが、新採用職員の気持ちで頑張りますので、皆様のご協力をお願いします。



主任
常間 千春

2008年4月より付属図書館にて勤務しています。図書館ではカウンターでの業務の他に予算の執行・管理などを担当しています。来館した皆様に快適に図書館を利用していただけるよう努力していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



総務課長
具志堅 健

昨年4月に、法人化調整総括として大学に配置され、公立大学法人化に関する業務を行ってまいりましたが、今年的人事異動により、総務課長の職に命じられました。総務課の業務は多岐にわたり、日まぐるしく1日が過ぎるときもありませんが、教職員の協力をえて、与えられた職務を果たしていきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。

配置換え

教職員の動き(2)

平成20年3月

定年退職：総務課長
古波蔵 保成

退職：助手
上原 綾子
助手
玉井なおみ

転出：助手
安里 葉子
助手
伊礼 優
主査
我那覇 暁典
主事
沖 忠人
学務課長
大山 基
主事
小笹いづみ
主査
下地ヒロ子

沖縄県立看護大学開学10周年記念講演

講師：尾身 茂 (WHO西太平洋事務局長)

演題：健康と文明

日時：平成20年10月27日(月)午後5時～6時

場所：沖縄県立看護大学

※参加費無料

かせかけとは、琉球古典舞踊女七踊りの一つです。総とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と「技術」「感性」は、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。



編集後記

今年、沖縄県立看護大学は開学10周年を迎えます。そこで、「10年目の実り」ということで表紙の写真に本学敷地内の植物の果実を掲載しました。また、新たに本年4月から別科助産専攻がスタートし、地域のニーズに応えるべく看護教育の充実および質の向上を目指しております。今後とも大学諸関係機関の皆様からの更なるご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

表紙写真：當山富士子

(広報専門部会)

沖縄県立看護大学

〒902-0076

沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号

TEL(098)833-8800(代表) FAX(098)833-5133

http://www.okinawa-nurs.ac.jp